

企業名： 三協立山株式会社

レポート名： 「統合報告書 2022」

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

三協立山株式会社は、「地元・得意先・従業員の三者が協力し、ともに発展したい」という三者協業の精神を掲げ、アルミを主力とした建築事業、マテリアル事業、商業施設建築事業、国際事業などを展開する企業である。同社は 2050 年に向けて、自社の経営理念・これまでの取り組みから長期的に目指す方向として「サステナビリティビジョン 2050」を策定するとともに、2030 年目標として「VISION 2030」を設定している。この中では、新型コロナウイルスやロシアのウクライナ進行による国際情勢の不安定化の波及を考慮しつつ、環境・社会・暮らしの三要素を軸に、各事業活動を通じて魅力ある価値を創造し、市場の変化に柔軟に対応できる経営基盤を構築し、持続可能で豊かな暮らしを実現することを掲げている。持続可能な会社・社会形成への長期的なビジョンと、実際に行っている具体的な活動・展開の両方の情報があり、同社は ESG 投資に強く力を入れていることが分かる。事業経営の面でも、中期経営計画で直近の動向を計画し ESG 関連とも絡めることで将来的な計画も立っているといえるだろう。よって、同社が目指す将来の姿は、直近の未来も 30 年後程の未来の姿にも具体的な記述があり、記述の様式も読み解きに難がなく、非常に理解しやすいと結論付けられる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

アルミ建材業界やサッシ業界において他企業との比較としての優位性は特に記述がなかった、読み取れなかったと感じた。1 番でも書いたように ESG 含む三協立山株式会社単体の将来性や現在の経営状況についての十分な記述は見受けられ、企業の透明性からくるステークホルダーへの印象・安心感が高いという点で、存在する会社全体を一望したとき同社の経営体制が魅力的である優位性は理解できるかもしれないが、事業内容での優位性について他企業との比較の情報は不足しているといえる。例えば、住宅事業についての展望の記述に関して、課題として同業他社との価格競争の激化が挙げられ、事業の強みとして流通販売制度や商品の性能が挙げられている。しかしこれでは、価格競争激化の状況下で同社がどの位相にありどのような対策を求められる立場なのか、その強みは他社との比較の上での強みなのかその分野において独占状態であることからの強みなのか、などといったことがわからない。絶対的な会社の魅力・強みとその展望はよく理解できるが、他社の強み弱みについての記述がないため（そういったものは書かないものなのかもしれない）、因果関係や競争における同社の位相は先立った知識がないと統合報告書のみからはひも解くことは難しいのではないかと感じる。よって同社の現在の競争優位性は理解しづらいと結論付けられる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

2番で述べた通り競争優位性についての明確な記述がないため正確にこれを述べることはできないが、その可能性について述べようと思う。主要財務データを10年分載せていることに加え、各事業の注力テーマや強み、課題・リスク、それへの対応を記しこれからの展開へも視野を向けていることは、過去と未来の相関関係を探る姿勢として評価できるだろう。また、中期経営計画において、現状を前年度予想と比較し具体的要因を分析している点（世界的な流通の低調化でアルミ原材料の高騰によるなど）や、実際前年度計画を国際事業以外は概ね達成している点で、同社の強みの持続性はあると考えられる。ゆえに競争優位性に持続性がある可能性はあるとみなせる。しかし、この統合報告書からは同業他社の動向が得られず、市場における成長率の比較や強み・事業ごとの同社の位相がわからないので、あくまでこれは可能性であることに留意したい。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

ESG投資の中で、従業員の人材育成・職場環境の向上などを掲げている。従業員教育としてチューター制度の導入や、階層別に必要能力の組み込みを図る研修を行っていて、人材育成の基本は十分所持しているといえる。また各個人に合わせたサポートやセミナーの実施など、従業員の健康サポートに注力していることが読み取れ、一番の人的資本である健康の維持については安心感を抱ける。しかし、人材育成・人的資本の価値向上という点においては他社も同様にやっているような基本的なことばかりで、同社だからこそという魅力的な要素がないように見受けられる。同社は国内外での事業展開に望んでいる最中であり、グローバルな人材を育成・活躍させる意義は整っているように思えるが、これは即戦力である中途採用に力を入れていることで満たそうとしているのだろうか。現時点で同社において、自身の人的資本の価値を一般的な企業と比べて特段向上させられるとは考えられないが、スキルアップにつながるような事業・要素はあるので、これからの人材育成への同社の注力次第で他社を大きく上回ることは可能であると思う。これに期待だ。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

統合報告書全体としての見やすさやわかりやすさといったデザイン性に非常に優れていると感じた。色使いでの識別や認識しやすい図表などを用いている。また事業内容の部分では注力テーマやTOPICといったまとめ方で、強調したいアピールポイントを細部まで読み込まないライト層にも一目で分かりやすいようにされていたのは良かった。役員紹介の部分でも、各人の写真とコメントが記載されていたのは彼らが書面上の人物ではないという温かい印象をもたらし、ステークホルダーの安心感につながり評価できる。私はこの統合報告書を読んだ時点で予備知識がなかったが、これを読み切ると大体の概要は理解できた。このように全体的に理想の統合報告書といえる。改善点を上げるとすれば、全てを読み込まず流

し読みするライト層のことを考慮して、初めのほうのページに同社の活動・経営事業についての概要が簡潔にまとめられていればよいなと感じた。私自身が読み始めたときに最初のほうは同社が何を行っている企業なのかよくわからないまま読み進めており、後になって把握したといった状況であった。そして、実際の従業員の声などを紹介する箇所があるとなおさら良い。その方が企業体制のイメージに実感がわきやすく、企業の透明性が増して閲覧する方の印象もよくなるだろう。このような改善余地は見受けられるが概して非常に良い報告書であった。

【参考文献】

統合報告書 2022 [【https://www.st-grp.co.jp/ir/pdf/Integratedreport2022.pdf】](https://www.st-grp.co.jp/ir/pdf/Integratedreport2022.pdf)